



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	学術情報の発信に関するアンケート調査報告書
Author(s)	附属図書館 情報ポータルワーキンググループ アンケート調査班
Issue Date	2005-01-06T02:52:08Z
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/301
Rights(URL)	https://creativecommons.org/licenses/by-nc-sa/2.1/jp/
Type	report
File Information	enquete.pdf, アンケート用紙



教員各位

北海道大学附属図書館長
井上 芳郎

学術情報の発信に関するアンケートについて（依頼）

附属図書館では、教員各位のご理解・ご協力のもとに電子ジャーナル・各種データベースの導入をはじめとする学術情報の利用環境整備に努めているところですが、近年、情報受信の環境整備だけでなく、大学が大学自身の研究成果等を積極的に収集し、広く社会に発信してゆく体制についても強く求められるようになってきました。科学技術・学術審議会が 2002 年 3 月に公表した『学術情報の流通基盤の充実について（審議のまとめ）』の中でも、附属図書館を中心とした情報関連組織の連携による統一的な発信体制の確立が各大学に要請されています。（http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu2/toushin/020401.htm）

附属図書館では、この要請に対する取り組みの一環として、大学等がその機関内で生産された電子的学術情報を蓄積・保存し、効果的に発信する新たなシステムとして注目されている「学術機関リポジトリ（電子保存庫）」システムの本学における有効性の検討を進めています。学術機関リポジトリは、マサチューセッツ工科大学（MIT）、カリフォルニア大学、グラスゴー大学をはじめ世界各国の大学図書館で運用されており、国内でも千葉大学が今年度本格的に運用を開始する予定です。

つきましては、このたび、学内の学術情報の電子化とその発信に関する教員の方々の意識やご意見等を伺い今後の検討の参考に資するため、本学所属の助手以上の教員全員を対象として、下記の通りアンケートを実施することとしました。

調査結果は附属図書館ホームページ等で公表する予定です。ご協力をよろしくお願いいたします。

記

回答期限： 2004 年 12 月 10 日（金）

提出先： 附属図書館・北分館または各部局図書室のカウンターにお持ちいただくか、
学内便で「附属図書館情報システム課アンケート窓口」宛（学内便番号 ）送付ください。
Web からでも回答いただけます。http://ambitious.lib.hokudai.ac.jp/enq_rep.html

問合せ先： 附属図書館情報システム課

TEL： 706-2564（専門員） E-mail： repo@lib.hokudai.ac.jp

学術情報の発信に関するアンケート

にチェックをつけてください。その他の場合は()に記入してください。

所属部局： (文字数の関係から部局名を略しております。ご了承ください。)

文 教育 法 経済 理 医 歯 病院 薬 工 農 獣医
水産 言文 地環 国広メ 情報科学 低温研 電子研 遺制研 触媒研
スラ研 情基セ アイソトープ 機器分析セ 留学セ 高機セ 先端研 博物館
量子集積セ 北方圏 エネ研 北ユーラシア 創成科学 保健管 体育指導セ
知的財産 医短 その他()

身分： 教授 助教授 講師 助手 その他()

設問 1]

ご自分で作成または作成に携わった電子的な学術情報をお持ちですか？それは Web 上で公開されていますか？
(該当のものすべてについてお答え下さい。) 電子ジャーナル等

- ・電子的学術情報を持っている 北大のweb 上から公開 外部のサイトから公開 公開していない
- 学術論文
 - 商業誌・学会誌に掲載された論文
 - 紀要等学内雑誌に掲載された論文
 - 学会等発表論文・プレプリント
- 学位論文
- ソフトウェア
- 教材(電子教材等)
- データ集
- その他()
- ・電子的学術情報を持っていない

また、電子的学術情報をお持ちの場合、情報のデータ形式は何ですか？(複数回答可)

PDF HTML XML テキスト GIF, JPEG, TIFF, PNG TeX, LaTeX
MS Word Excel PowerPoint その他()

設問 2]

学術情報をインターネット上で誰もが無償でアクセスできるようにする「オープンアクセス」の考え方が世界的に広まっています。最近では、英米の議会が、公的助成を受けたすべての研究者はオンラインにより無償で研究成果を提供するよう勧告しました。「オープンアクセス」の考え方についてどう思われますか？

賛同しすでに実践している 賛同するが実践はしていない 機会があれば実践したい
どちらかという賛同できない 賛同できない
その他()

設問 3]

学術機関リポジトリは、電子書庫として学内の教職員が生み出す学術情報を蓄積するとともに、それらを効果的に世界中に無償で発信することにより、より多くの研究者の目にとまる機会を増やそうというものです。学術情報の著作権がリポジトリあるいは図書館に移動することはありません。もし本学に学術機関リポジトリが構築された場合、ご自身の学術情報を学術機関リポジトリに登録して情報発信することについてどう思われますか？

賛同するので登録したい 賛同するが登録したくない 賛同できない
その他()

(裏面に続く)

[設問 4-1]

設問 3 で「賛同するので登録したい」と答えた方へ、その理由は何ですか？（複数回答可）

- | | |
|-----------------------|------------------------|
| 研究成果等をより多くの人に公開できるから | 可視性が上がり論文等の被引用率が高くなるから |
| オープンアクセス運動に賛同しているから | 研究成果等を永続的に保存できるから |
| 研究・教育資源の共有化に有効だから | 大学による統一的な発信体制の確立が必要だから |
| 大学の知名度や評価を上げることができるから | その他（ |

[設問 4-2]

設問 3 で「賛同するが登録したくない」または「賛同できない」と答えた方へ、その理由は何ですか？（複数回答可）

- | | |
|--------------------|-----------------------|
| 著作権上の問題が心配 | 利用者による悪用が心配 |
| 登録作業が面倒だと思う | 研究成果等は学術雑誌に発表すれば十分だから |
| 学術機関リポジトリに関する情報が不足 | 何を登録すればよいかわからない |
| その他（ | |

[設問 5]

学術雑誌に論文を発表すると、多くの場合、その著作権は学術雑誌出版社に譲渡されますが、学術研究目的のために無償で配布するための権利（とりわけ Web で公開するための権利）を保持しようという運動が進められており、これを認める出版社や雑誌が増えています。一般に green publisher と呼ばれ、例えば Elsevier や Blackwell, Nature が挙げられます。（<http://www.sherpa.ac.uk/romeo.php?all=yes>）これら green publisher に論文を発表したことがありますか？

- 発表したことがある
 発表したことがない
 分からない

下記の出版社は、green publisher の一部です。

発表したことがある方は、発表したことがある green publisher にチェックをおつけください。（複数回答可）

- | | | |
|------------------------------|-------------------------------|---------------------------|
| American Geophysical Union | American Institute of Physics | American Physical Society |
| Annual Reviews | BioMed Central | Blackwell |
| CAB International Publishing | Cambridge University Press | Elsevier |
| Institute of Physics | International Press | John Wiley& Sons |
| Michigan Law Review | National Academy of Science | Nature Publishing Group |
| Optical Society of America | Royal Society | SAGE Publications |
| その他（ | | |

設問は以上です。ご協力ありがとうございました。その他、ご意見ご質問ご感想など下記に記載ください。

[]

[]

[]

差し支えなければ、お名前、連絡先、講座名を記載ください。下記の個人情報は厳守します。

お名前：

連絡先電話：

E-mail：

講座名：

もう少し詳しくご意見をお伺いするためにご連絡してもよろしいですか？ はい いいえ

参考資料

用語解説

・オープンアクセス

研究成果を誰もが無料でいつでも利用できるようにしようという考え方。

欧米を中心に、研究者が、自身の研究成果をできるだけ広く公開したい、また他の研究者の研究成果へ障壁なくアクセスしたいという要求から起こった考え方で、これはまた、学術商業出版社の寡占状況による雑誌価格の高騰により、研究に必要な論文が入手しにくくなった状況、研究者の研究環境に格差が生じている状況を改善しようとする動きでもある。今年 2004 年の 7 月には、英国下院科学技術委員会、米国下院歳出委員会が、研究成果へのアクセスを改善するため、公的資金の投入された研究成果については誰もが無料で利用できるようにオープンアクセス化を推進することを勧告した。

オープンアクセスを可能にするためには、オープンアクセス雑誌 (OA 誌) に投稿するか、研究者自身がセルフアーカイビングする方法がある。セルフアーカイビングとは、著者が自身の論文を、個人サーバ、分野別サーバ、あるいは機関 (大学 / 図書館) が運営するサーバに蓄積しそれを無料で公開する方法である。最近、機関としてまとめて蓄積し、効果的に発信できる学術機関リポジトリで公開する方法が注目されており、世界各国の大学図書館で学術機関リポジトリが運営されている。

また、2004 年 6 月には、オープンアクセス論文は非オープンアクセス論文に比べて被引用率 (インパクト) が高いという論文 (<http://www.nii.ac.jp/metadata/irp/harnad/>) が発表された。

・green publisher

ポストプリント (査読済み論文) をセルフアーカイブすることを認めている出版社のこと。

JISC (Joint Information Systems Committee : イギリスにおける高等教育および研究のための情報システム環境とネットワーク基盤を提供するための公的組織) が、RoMEO (Rights Metadata for Open Archiving) プロジェクトで、出版社の著作権ポリシーとセルフアーカイビングに対する姿勢を調査し公開した。この中で、ポストプリント、つまり雑誌に掲載された論文をセルフアーカイブしてもよいとした出版社を green に色分けしたことから、green publisher と呼ばれている。現在は SHERPA (Securing a Hybrid Environment for Research Access and Preservation) プロジェクトで維持されている。(<http://www.sherpa.ac.uk/romeo.php> (出版社検索) <http://romeo.eprints.org/> (雑誌タイトル検索))

なお、大手の green publisher は、オリジナル原稿に限ってセルフアーカイビングを認めており、電子ジャーナルの PDF や雑誌をスキャンしたものは不可としている。

学術機関リポジトリに関する参考文献

・機関リポジトリ擁護論 : SPARC 声明書

http://www.tokiwa.ac.jp/~mtkuri/translations/case_for_ir_jptr.html

・増えてますネットの書庫 : 千葉大のリポジトリ - 研究の結晶、独自に公開 (東京新聞 H16.7.15 夕刊)

http://www.tokyo-np.co.jp/00/dgi/20040715/ftu_dgi_000.shtml

_(半角アンダーバー)が5つ並んでいます。

・同一ジャーナルに掲載されたオープンアクセス論文と非オープンアクセス論文のインパクトを比較する

<http://www.nii.ac.jp/metadata/irp/harnad/>

・国立情報学研究所 (NII) の関連ページ

<http://www.nii.ac.jp/metadata/oai-pmh/links.html>

・日本における学術機関リポジトリ構築の試み 千葉大学と国立情報学研究所の事例を中心として

「情報の科学と技術」 54 巻 9 号 (2004) p.475 - 482

・学術機関リポジトリ [教育・研究成果の公開書庫]

北海道大学附属図書館報「榆蔭」 No.118 (2004.10) p.15 - 16